

第3次愛莊町地域福祉活動計画 令和4年度活動報告書

社会福祉法人 愛莊町社会福祉協議会

見守り・居場所プロジェクト 今後の取り組み内容



★最終目標★

**SOSを出せない方がSOSを出せる、
近隣のみんながSOSをキャッチできるようなしくみを作る**

中間目標：

★居場所をしたい人・している人への居場所を作る（思いをつなげる居場所塾）

★地域で居場所をしてくれる人を増やす

★企業や福祉施設に出向き、地域で一緒に出来そうなことなどを聞き取りして情報提供できるようにする

プロジェクト内での共通のイメージ

- ・来てもらえるような楽しいこと
- ・来てもらえない方への見守り
- ・活躍できる場
- ・何かをしながらポロっと話される

何気ない言葉

地域で居場所を開催



地域での見守りに
つなげる

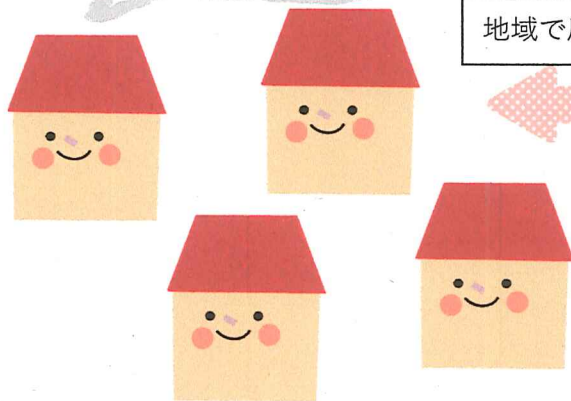
居場所をしたい人・している人の居場所づくり

※居場所のことを考えてくれる人を増やす

居場所を続けていくための情報交換



サポート
(地域貢献等)



くらしサポートプロジェクト

【私たちのコンセプト !(^.^)!】

「くらしにくさ」や「困りごと」の課題を解消する取り組みは、ノルマをこなすことになってしまいがち。前向きに、明るく取り組むため、長所やよいところに着目して取り組んでいきます。

【これから進めていくこと (#.^.#)】

委員・職員で困りごとに対応するための「困りごと支援ネットワーク（仮称）」（計画書9頁下段イラスト）がこの町で進める取り組みとなるように、a～cのうち、bの取り組みから着手していくことを確認し、委員・職員がお互いにイメージしていることを出し合い、共通のイメージとなるように話し合いから始めました。

「b 身近で誰もが安心して利用できる相談窓口をつくります」

「身近で」→「身近」は近所？それとも心の距離感？

- ・しょうもない話ができるところ→その場が相談につながることを意識的に組み入れることが大事
- ・案外、近所の方に相談しにくいことが多い

「誰もが」→住まいの地区？それとも対象ごと？

- ・万人に来てもらえるとういが、そのためにはどうしたらよいのか？
→高齢者や障がい者の相談対応をしているが、悩みごとはそれぞれ。できることを基準にした関わりになってしまう。
- ・一家族や一人に対して「困窮」、「障害」、「高齢」などによる生活の諸課題が重なり合っていることを考えると住まいの地区がよいのではないか？
- ・近所に相談しにくいことを考えると、対象者ごとがよいのでは？

「安心して利用できる相談窓口」→困っていることを困ってるっていえる？

- ・子どもは、「困りごと」を「困りごと」と思っていないように見受ける。
→困りごとを認知できていないことをキャッチしてもらえるところ
- ・SOSを出しやすい環境が重要。例えば子供のSOSは親以外の大人がみつけないといけないと思う。
→そういったことでは、見守りの「声掛け」や色々な方々との「交流」がとても大切。
- ・既存の相談窓口は多くある。窓口の集約も必要なのではないか。
- ・これまで人々が集まる場に付加価値的なものが多くあった。でも、コロナ禍により止まってしまった。
→「居心地がいい」、「気持ちに通じる」はコロナ禍であっても続いてきた。
「居心地がいい」、「気持ちに通じる」は、お互いの価値観が合ってること
- ・専門相談というより、一般相談として受ける入口的なものがあるとよいのではないか。

【引き続き検討していくこと (*´艸`*)】

「つくる」

- ・誰がつくるの？ 社協？地区？ボランティアやNPO？→誰かがしてくれると思いがち
- ・多種多様な相談窓口も多いなか、新たにつくるの？
- ・一般相談としての役割をこの町にある居場所に持たせていけるのか？
- ・この町にある居場所に関わる方々とどのようにして連携していくとよいのか!?
誰がどのように作っていくのか？既存の居場所と連携できるのか？

「福祉を伝えるプロジェクト」今後の取り組み方針

5年後の目標

キーワード「共生社会」

aとcは一体で考えていく

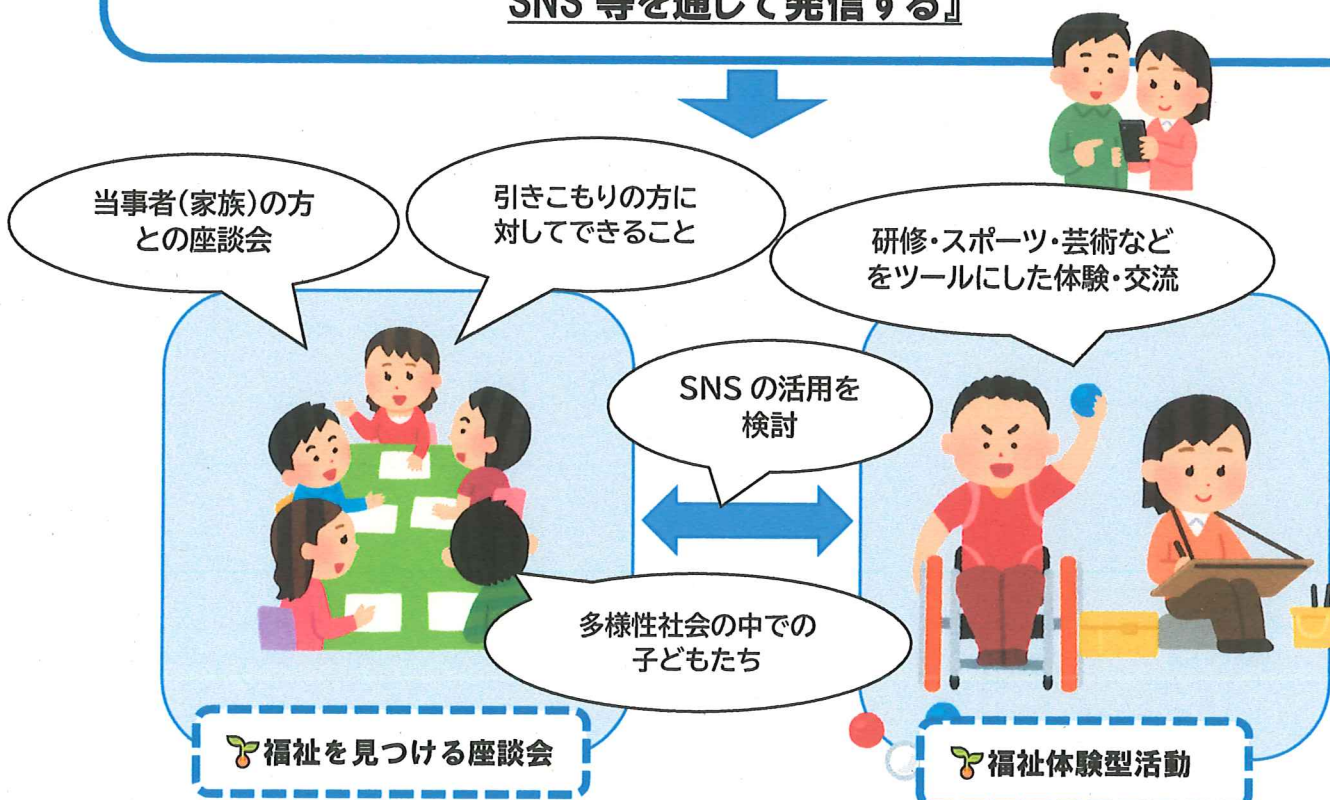
取り組み a 福祉を学べる・体験できる場づくりをさらに増やします

c 子どもたちの福祉学習をみんな（町内の学校や自治会・関係機関・団体など）で協力します

『福祉を身近に感じる機会をつくる』

取り組み b 若い世代の福祉への関心を高めます

『福祉意識の芽生えとなる福祉情報を
SNS 等を通じて発信する』



R4年度の活動

R5年度の活動

R6年度の活動

R7年度の活動

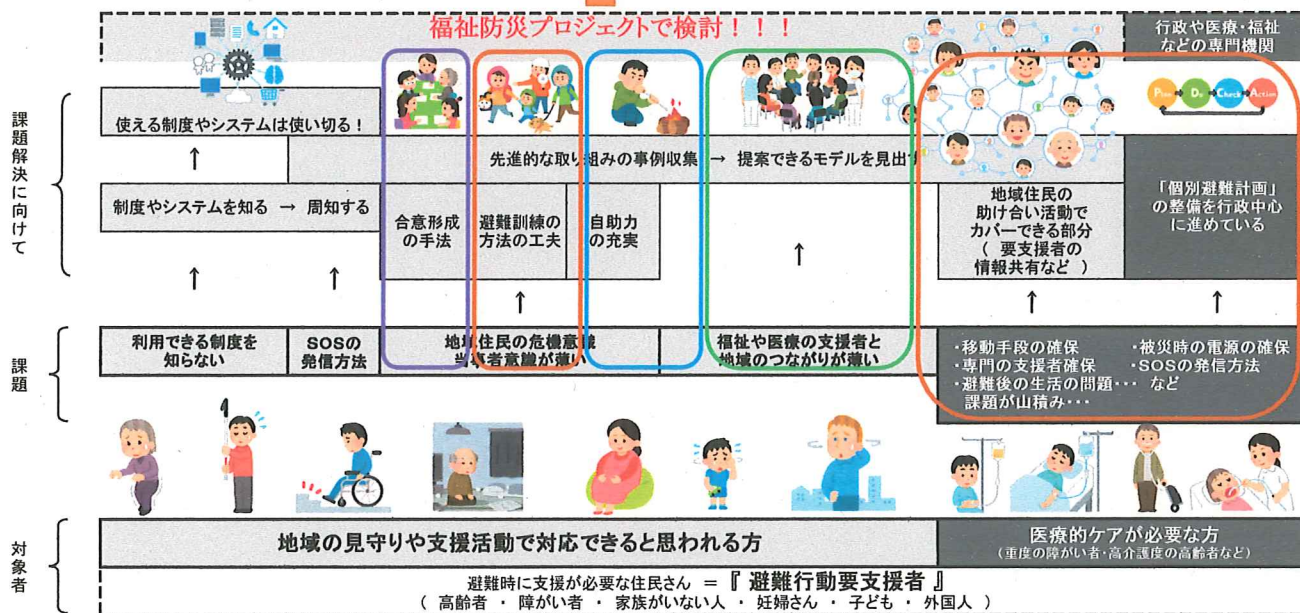
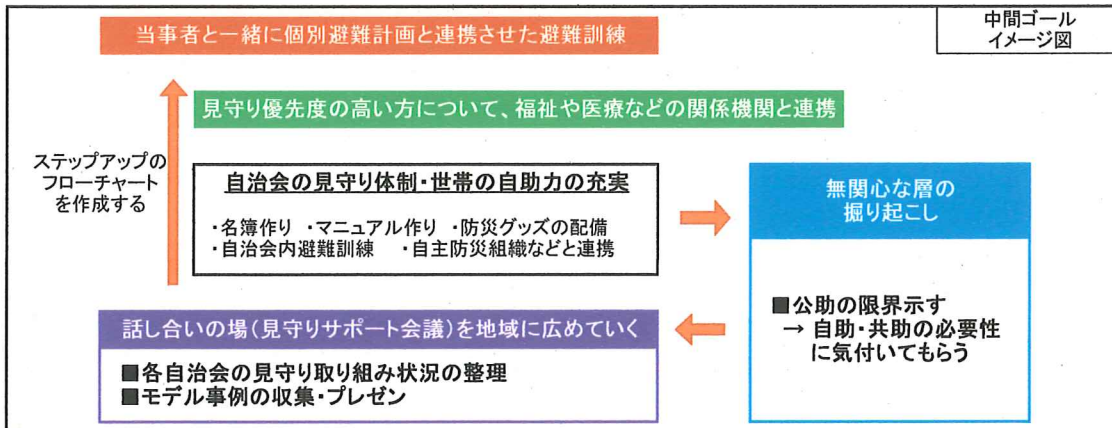
R8年度の活動

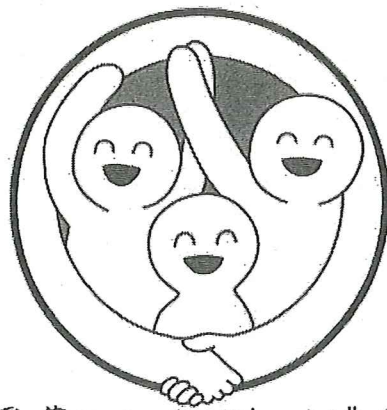
【究極ゴール】 『誰も取り残さない地域』の実現！！



【中間ゴール】

- ① 地域で『普段からの見守り』や『防災』について話し合う場を広げる
- ② 防災活動などに無関心な層の掘り起こしに向けた取り組み
- ③ 見守り体制が整った地域と福祉・医療専門職とのつながりが持てるような取り組み
- ④ 地域内でできる『誰も取り残さない』をテーマにした避難訓練の実施
- ⑤ 当事者と一緒に個別避難計画と連携させた避難訓練の実施





愛莊町社会福祉協議会